

テンペスト 上 若夏の巻



[テンペスト 上 若夏の巻 下载链接1](#)

著者:池上永一

出版者:角川グループパブリッシング

出版时间:2008/8/28

装帧:单行本

isbn:9784048738682

『野性時代』（角川書店）にて2007年1月号から2008年6月号まで連載されていた。1

9世紀末の琉球王朝を舞台にした物語で、連載されていた当時から大きな反響があった[1]。1800ページを超える大作で、イラストは長野剛が担当した。タイトルの「テンペスト」はシェイクスピアの戯曲「テンペスト」に因む[2]。

琉球王朝を舞台にした作品はいずれ書きたいと以前から考えていたことである[3]。また、首里城の王印が紛失しているという事実も、ストーリーや登場人物の形成に影響を与えたと言う[3]。

注意：以降の記述で物語・作品に関する核心部分が明かされています。

誰よりも聡明な少女・真鶴は、女であるというだけで学問を修められないことを不公平に思っていた。跡継ぎと目されていた兄の失踪を機に、宦官・孫寧温と名乗り、性を偽って生きていくことを誓う。

科試に合格した寧温は、王府の役人として、降りかかる難題を次々と解決し、最速の出世を遂げていく。

そんな寧温を阻む、数々の敵。遂に謀反人として八重山に流刑にされた寧温は真鶴に戻り、九死に一生を得る。その類稀なる美貌と才覚を見初められ、自分の意思とは裏腹に王の側室として王宮へ返り咲くこととなる。

平穏な生活はペリーの来航により風雲急を告げる。外交に長けた人物として、八重山にいる（と思われる）孫寧温に王府へ戻るよう王命が下る。昼間は宦官の役人、夜は側室と、真鶴は一人二役をこなさなければならなくなってしまう。

薩摩と清国、2つの国の狭間で揺れる琉球に近代化の波が押し寄せる。

作者紹介:

池上 永一（いけがみ えいち、1970年5月24日-）は、日本の小説家。本名・又吉真也。沖縄県出身で、那覇市に生まれ、3歳より中学卒業まで石垣島で育つ。血液型はO型。沖縄県立開邦高等学校卒業、早稲田大学人間科学部人間健康科学科催眠専攻中退。

1994年、早稲田大学在学中に『バガージマヌパナス』で第6回日本ファンタジーノベル大賞を受賞しデビューする。1998年には、『風車祭（カジマヤー）』が直木賞候補となる。現代社会と伝統的な精神世界観が融合する作風から、日本の代表的なマジックリアリズム作家と評されている。また、沖縄戦や在日米軍基地等といった、沖縄県が現在もなお抱え続ける問題（いわゆる沖縄問題）を作品のテーマとして取り上げ、正面から向き合いながらも、突き抜けた明るさと力強い可能性を未来に託すという執筆のスタンスは、日本復帰（1972年5月15日）後世代ならではのものと評されており、それまでの沖縄県出身者の戦後の文学作品には見受けられないものであると言うことができよう。

目録:

[テンペスト 上 若夏の巻 下载链接1](#)

标签

池上永一

日本文学

日语

日本

日文书

历史

中居文库

YY琉球史,

评论

[テンペスト 上 若夏の巻 下载链接1](#)

书评

[テンペスト 上 若夏の巻 下载链接1](#)